

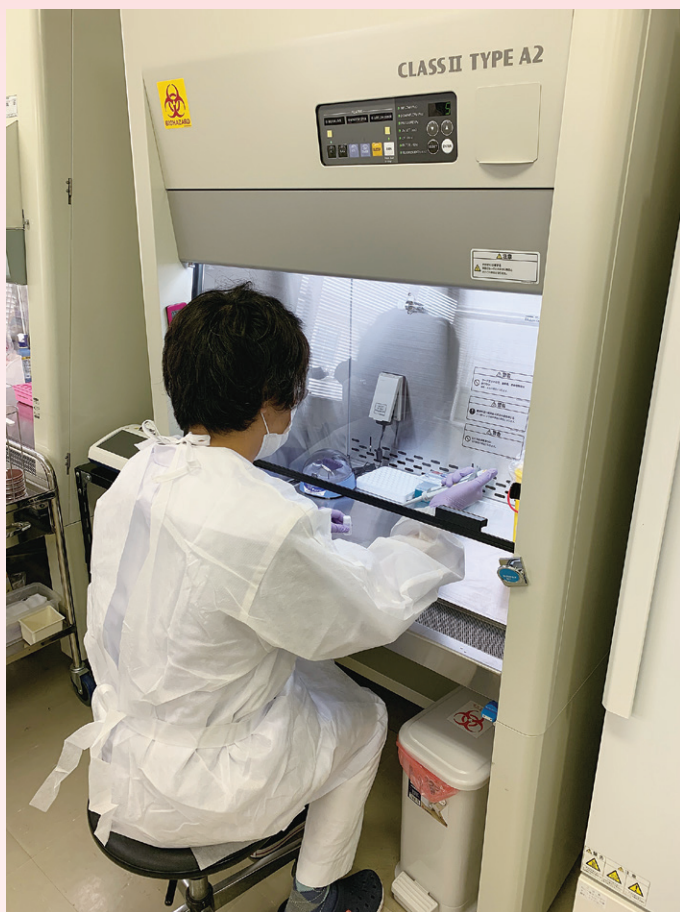
がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

当院のコロナ対策について

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、パンデミックを引き起こし現在も日本および世界で感染者数や死亡者数が増加しています。当初は手探り状態の対応でしたが、現在までに知見もだいぶ増えました。当院では、最新の知見に基づいた感染症対策を院長直轄の感染対策部が主導して実施しています。感染対策部は、感染症専門医・インフェクションコントロールドクターの資格を持った医師および感染管理認定看護師資格を持った看護師が主体となって構成されています。

COVID-19の主な感染経路は飛沫感染および接触感染であり、無症状病原体保有者からも感染リスクがあります。感染経路に基づいて、当院では職員と患者さんおよび付添いの方に対して対策を実施しております。



新型コロナウイルスの検査の様子

職員に対しては、出勤前の体温測定、ユニバーサルマスキング、手指衛生遵守、体調不良職員の報告システムと就業制限、体調不良職員に対するPCR検査の実施を行っています。

来院される方に対しては、病院入口でのサーモグラフィーを用いた入館者チェック、来院前の体温測定のご願い、マスク着用、院内の手指消毒剤の設置、各科受付における体温測定、面会禁止、付添い制限、手術前の自宅療養のご願いなどを行っています。また、来院時にCOVID-19が疑われる患者さんに対しては、院内敷地内に設置された専用のブースにご案内し、そこで診察を行います。また、入院が必要な当院のかかりつけ患者さんに対しては、専用病棟を設置しております。

まずは、インフルエンザとCOVID-19の同時流行が危惧されるこの一冬をなんとか乗り越えるべく、病院が一体となって取り組む必要があります。個人レベルでも基本的な感染対策をおろそかにしないようにしましょう。

感染対策部 室長 伊東直哉

患者満足度調査から見えること 今後の改善に向けて2020

愛知県がんセンターでは、安全で安心な医療サービスを提供するため、患者さんからご協力いただき、毎年「患者満足度調査」を行っております。今年度は外来で10月6・8日、入院では10月6～8日に実施いたしました。その結果をお知らせいたします。

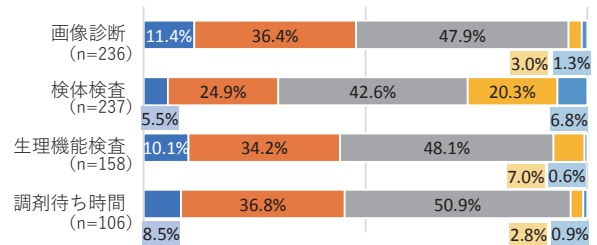
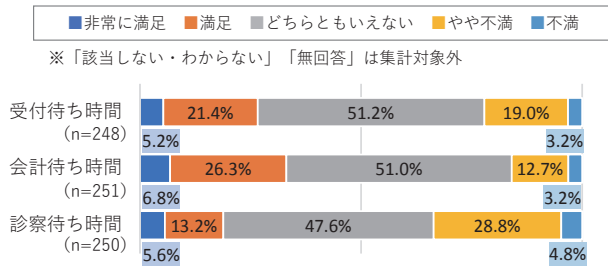
- 1. 調査件数** 外来部門 配布枚数：300枚 有効回答数：272件（回答率：90.7%）
 入院部門 配布枚数：300枚 有効回答数：229件（回答率：76.3%）

2. 調査結果

1) 総合的に当院を100点満点で評価すると何点ぐらいになりますか

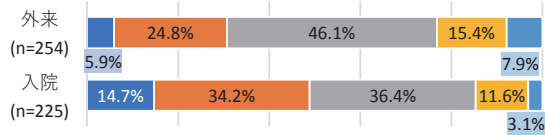
①外来部門 平均83.0点 ②入院部門 平均86.1点

2) 外来待ち時間満足度

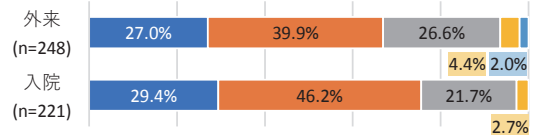


3) 満足度（一部抜粋）

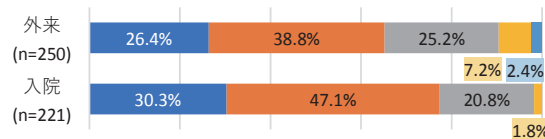
【設備・施設】 トイレの清潔さ、使いやすさ



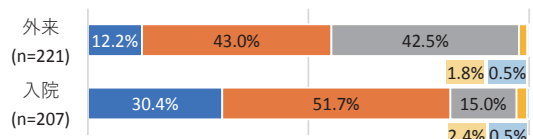
【医師】 病状や検査結果の説明のわかりやすさ



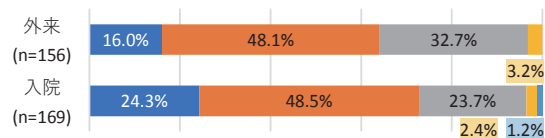
【医師】 質問や相談のしやすさ



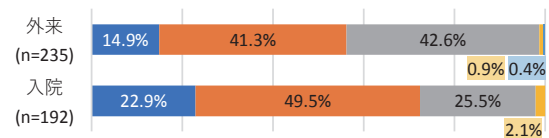
【看護師】 痛みやつらさ、不安等を和らげる配慮



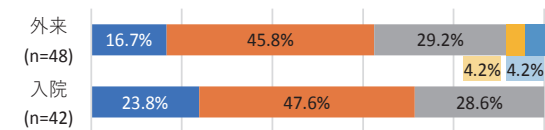
【薬剤師】 薬の説明のわかりやすさ



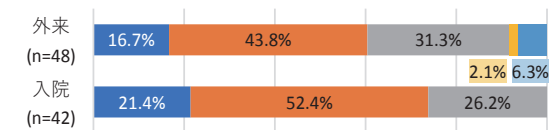
【放射線技師】 検査に関する説明



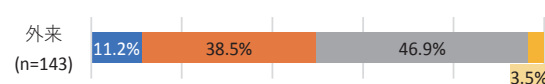
【相談支援センター】 相談したい内容を相談できたか



【相談支援センター】 相談したい内容についての説明



【化療センター】 治療しながら生活することへの看護師の説明



【入浴】 入浴・シャワーの設備



【食事】 食事のメニュー



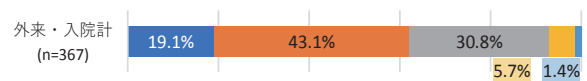
【食事】 食事の味



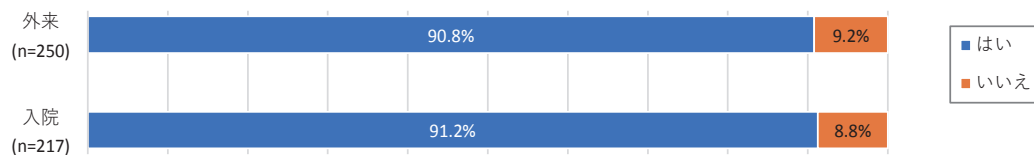
【退院】 退院時の看護師の説明



【退院】 退院後の生活についての説明



4) すべての職員は検査や処置などの前に、フルネームでお名前を名乗っていただくようにしていましたか



3. 総 評

「患者満足度調査」にご協力いただきありがとうございました。本調査は当院が患者さんの立場に立った安全で安心な医療サービスを提供できているのか、多くの患者さんのご意見をいただく貴重な機会となっております。そのため、患者さんに丁寧な説明ができているのか、何かお困りごとがあった際に支援ができているのかなどを質問させていただきました。わずかではありますが、改善できていることもあると感じさせていただきました。しかしながら、同時にまだ多くの課題があると感じました。また、安全な医療を提供する上で最初に必要な患者さんの確認を2識別子（フルネームと生年月日）でさせていただくよう昨年度から取り組んでおります。まだ100%に至っておらず、引き続き全職員で取り組んでいきます。今後も、いただいた貴重なご意見、調査結果を受け止め、一つずつ改善できるよう取り組んでまいります。

(2020年度患者サービス委員会委員長 戸崎加奈江)

※全ての調査項目につきましては、ホームページで公開します。 <https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/>

ひとつの帽子が患者さんを支える

相談支援センターでは、2008年から化学療法（抗がん剤治療）や放射線治療により脱毛の副作用症状が表れる患者さんに、タオルや毛糸で製作された帽子をお渡しさせていただいております。

きっかけは、岩手ホスピスの会（2002年設立）が、がん患者さんやそのご家族を支援する活動としてタオル帽子活動を開始され、全国のがん相談支援センターを中心に声を掛けていただき、当院も2008年度よりその活動に参加させていただいたところから始まりました。

現在、当院では、個人の方が中日新聞を通じて毛糸の提供を呼びかけられ4人で製作され提供されたもの、社会福祉協議会を通じて寄付されたもの、今年度から活動を開始された団体からのもの、また個人の方々等、多くの方々よりご支援頂き、患者さんにお渡しさせていただいております。

今年度は、帽子提供のメッセージを写真付きで院内に掲示したところ、毎月50名程の方が相談支援センターに来ていただくようになりました。患者さんからは「本当にこんなに素敵な帽子を頂いて良いのですか」「大切にに使わせていただきます」等多くの感謝の言葉を頂いております。患者さんにメッセージカードにひとこと書いていただいて、相談支援センターよりご寄付頂いた団体へそれをお渡しするようにしております。相談員にとっても、患者さんがお似合いになる帽子を選ぶことのお手伝いをする事で、毎回、患者さんの笑顔に出会うことになり、改めて一つ一つの帽子が患者さんの生きる意欲、治療意欲に繋がっていることを実感しています。

今後も相談支援センターを通じ、このような心の交流と善意の輪が広がることを期待すると共に、心を込めて製作して下さったボランティアの方々へ、あらためて感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

地域医療連携・相談支援センター



とうろく医探訪 No.18

Produced by
地域医療連携・相談支援センター

亀谷内科胃腸科 院長:亀谷 章 先生



私は昭和 60 年から 4 年間消化器内科（当時は第一内科）にスタッフとして、同級生の妻は昭和 50 年から 3 年間研修医としてがんセンターにお世話になりました。そのため私たち夫婦は、がんセンターを身近な病院と感じています。

15 年ほど前、私が直腸がん（妻が内視鏡検査をしました）と診断された時にすぐ、がんセンターに電話をして治療をお願いしました。医師はもちろんナースも高度のスキルをもって治療に当たってくれましたので、不安を感じたことはありませんでした。私は医師としてまた患者としてがんセンターの良さを実感しました。

平成元年に伊勢で開業し 32 年目となります。二人とも消化器内科を専門としていますので、上部消化管内視鏡検査件数は年間 1000 例超、下部消化管内視鏡検査も 100 例超で推移していましたが、さすがに古希を過ぎてからは検査件数を 80%ほどに制限しました。

当院はがんセンターの登録医療機関であるのはもちろん、三重県で愛がんネット登録第 1 号です。がんセンターでの治療を希望されて、紹介してほしいといわれる方が結構みえます。患者さんからの口コミで広がったと思います。愛がんネットに接続しているため、紹介した患者さんの病状や治療内容を知ることができ、大変ありがたく大いに利用しています。また、当院は在宅医療（強化型在宅療養支援診療所）にも力を入れていますので、がんの末期や在宅で最期を迎えたいと思っておられる患者さんを多く引き受けています。

【医療機関情報】

亀谷内科胃腸科

診療科目／消化器内科・循環器内科・呼吸器内科

電話／TEL 0596-22-1105

所在地／〒516-0037 伊勢市岩洲1丁目13-3

ホームページ／<http://kameya.cside5.jp/kameyanaika/>

★在宅医療にも力を入れております（強化型在宅療養支援診療所）

時間	月	火	水	木	金	土	日/祝
午前 9:00-12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後 3:00- 6:00	○	○	○	—	○	—	—



編集後記：第 18 回は、伊勢市「亀谷内科胃腸科」亀谷章先生です。近鉄宇治山田駅のすぐ傍にあり、中に入りますと、受付の方々の気持ち良い挨拶と亀谷先生の穏やかな雰囲気、安心感を与えてくれます。当院通院中の伊勢方面の患者さんを、「愛がんネット（カルテ閲覧システム）」でがんセンターでの治療状況を把握されながら、かかりつけ医として連携し診療にあたってください。<Y.SANO>

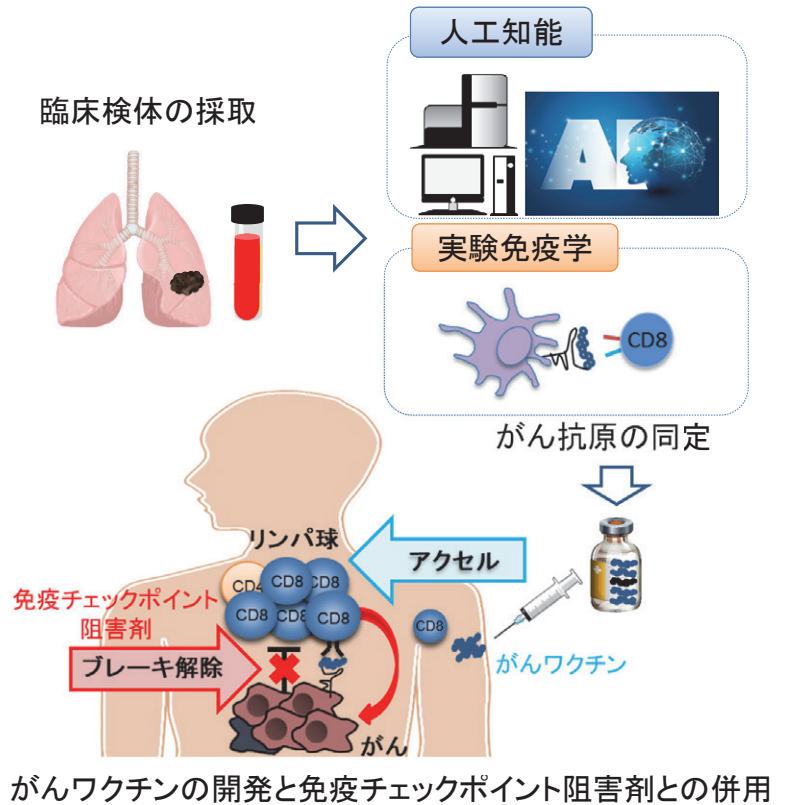
がん抗原を標的としたがんワクチンの開発

研究所 腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野



腫瘍免疫制御TR分野長
松下博和

がん免疫療法の一つである免疫チェックポイント阻害剤が、標準治療としての地位を確立し成果を上げていますが、治療効果を認める患者さんはまだ僅かです。免疫チェックポイント阻害剤は免疫抑制を解除する治療薬であり、腫瘍に対する免疫応答（T細胞免疫応答）が存在するものの、それが抑制されていた患者さんで治療効果を発揮します。すなわち、免疫抑制の解除により活性化されたT細胞が、腫瘍細胞を攻撃し排除することで効果が得られています。私たちは、T細胞が腫瘍細胞を認識する際に必要ながんの目印、つまりT細胞免疫応答の誘導に必須な分子であるがん抗原について、個々の患者さんのレベルで明らかにする研究を行っています。その患者さんで鍵となるがん抗原が同定できれば、抗原に対する免疫応答を増強する有効ながんワクチンの開発が可能になり、免疫チェックポイント阻害剤との併用で上乘せ効果が期待できると考えています。そのような有望ながん抗原の同定を、病院、研究所、企業との連携で、がん患者さんの腫瘍検体や血液検体を用いて、実験免疫学と人工知能（AI）の融合により進めています。



がんの全遺伝子を調べる「全エクソン検査」の提供を開始しました！

がんゲノム医療センターでは、2019年10月より、治療薬を探すために一度に多くの遺伝子のがん組織での変化を調べる「がん遺伝子パネル検査」を保険診療で開始しています。また、保険適応がない方や調べるがん組織がない方のために、血液だけで調べられるパネル検査なども自費診療で提供し、多くの患者さんにご利用いただいています（表）。

今回新たに、がん組織の約2万種類の遺伝子のほぼ全てを調べられる最先端の「全エクソン検査」の自費診療での提供を開始しました。がん治療薬には限りがあるため、調べる遺伝子の種類が増えた分だけ治療法が見つかるわけではありませんが、一部の遺伝子だけを調べるパネル検査ではわからなかった多くの情報が得られることが期待されています。

保険診療のパネル検査の適応にならない場合やご自身の状況に合った治療を探したい場合など、ご興味ございましたら、診療科担当医やがんゲノム医療センターにご相談ください。

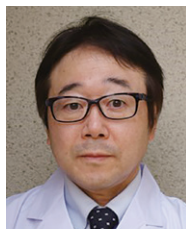
がんゲノム医療センター

当院取扱い「がん遺伝子パネル検査」と新規「全エクソン検査」の比較表

検査名	FoundationOne® CDx がんゲノムプロファイル	OncoGuide™ NOCオンコパネルシステム	Guardant360	MSK-IMPACT	全エクソンシーケンシング解析_ver.MH
検査対象遺伝子	がんに関係する複数の遺伝子のみ (がん遺伝子パネル検査)				全ての遺伝子
遺伝子数	324遺伝子	114遺伝子	74遺伝子	468遺伝子	約2万遺伝子
必要な検体	腫瘍	腫瘍+血液	血液のみ	腫瘍+血液	腫瘍+血液
検査期間	1~2ヶ月	1~2ヶ月	0.5~1ヶ月	1.5~2.5ヶ月	1~1.5ヶ月
医療保険との関係	保険診療 ※3割負担の方で約17万円 (高額療養費制度の適応あり)		自費診療 ※「自由診療保険メディコム」(セコム損害保険株式会社) 加入の方は、利用が可能 (詳しくはおたずねください)		

新型コロナウイルス感染症下での肺がんの内科治療

病院 呼吸器内科部



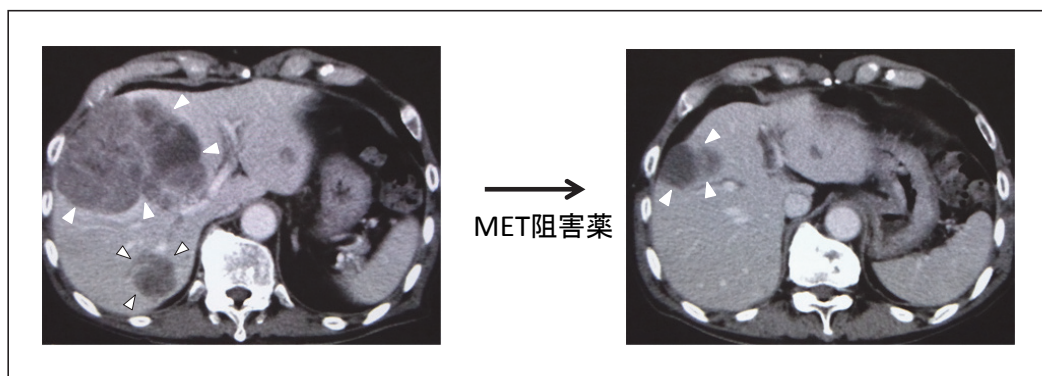
呼吸器内科部長
樋田豊明

新型コロナウイルス感染症の広がりに伴いがん治療への影響も懸念されています。がん患者さんは、がん自体や治療の影響で免疫力が低下している場合があります、そうした状態ではコロナに感染すれば重症化しやすく命に関わる危険性も出てくるからです。

肺がんの治療に関してコロナ感染症の流行程度や肺がんの状態などを総合的に判断し、主治医の先生とよく話し合っただけで治療を進める事が重要です。一般的には肺がん患者さんへの局所放射線治療や内科治療（抗がん剤治療、分子標的薬治療、免疫治療）とコロナ感染の重症化との関連性は認めてはいません。一点、免疫治療や分子標的薬治療の副作用の一つに頻度は低いのですが肺炎があり、症状や画像所見では区別が難しい場合もあり注意は必要です。

最近、肺がんの新規治療法としてMET遺伝子異常（MET遺伝子エクソン14スキッピング）に対する新薬が使用出来るようになりました。MET遺伝子異常は肺腺がんの約3%程度に存在し、働きとして肺がん細胞の増殖、浸潤、転移や上皮間葉移行に関与することが分かっています。この異常によりがん細胞が増殖しますが新規MET阻害薬はがんの増殖を著明に抑えますので、この異常を確実に見つけ出して新規治療に結びつける事が重要です（図）。一方、免疫治療も非小細胞肺がんや悪性

胸膜中皮腫に続き小細胞肺がんへの治療も認可され、免疫療法で高い効果が得られる人を治療前に予測する方法や、より効果を高める方法についての検討も現在精力的に行われています。



図：肺がんの新規治療法としてMET遺伝子異常（MET遺伝子エクソン14スキッピング）に対する治療法が開発されました。MET遺伝子異常によるがんの増殖を抑える新規MET阻害薬により、肝臓への転移が縮小しています。

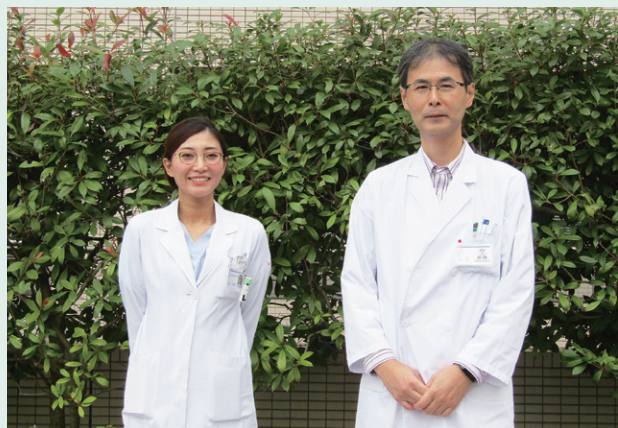
循環器科部 スタッフの紹介

循環器科部は、常勤医師2名（専任1名、兼任1名）、非常勤医師1名で日々の診療を行っています。

直接がんの治療を行うことはありませんが、各科のがん診療をサポートする形で術前の検査や循環器疾患のある方の診察・診療に当たっています。

小さな部署ですが、受診された患者さんに安心して治療を受けていただき、また円滑に治療が進むように微力ながら日々診療を続けています。

皆様から温かいご理解とご協力を頂ければ幸いです。よろしくお願いたします。



写真：左から、塚本名里子（兼任）、山本 充（部長）

健康寿命をのばそう

病院 リハビリテーション部

リハビリに関わるスタッフは、2015年まではリハ医が1名、理学療法士が1名でしたが、2016年には理学療法士が2名増員、2017年には作業療法士、言語聴覚士が1名ずつ増員、2018年に理学療法士が2名増員、2020年に理学療法士が1名増員されました。2021年以降に作業療法士、言語聴覚士が増員されると、さらに充実したがんリハビリが期待できます。

コロナの影響で、2020年7月頃までは入院患者さんが減少しましたが、重症な患者さんのリハビリが多く依頼され、我々の仕事は今までと変化ありませんでした。ただし濃厚な接触が必要な職種なので、日頃から十分に感染対策を講じて患者さんに接するように心がけています。現在は定期で介入する各がん腫の周術期リハビリ、化学療法のリハビリや、依頼されて介入する進行期、末期のリハビリも年々増加しています。毎週金曜日は視聴覚室において、ゴールが見えない患者さんにつ

いて、主治医にも参加してもらい多職種カンファレンスを行っています。最近はそれに加えて多職種の勉強会を始めました。先日は管理栄養士の先生からがんと栄養の講義をしてもらいましたが、今後はせん妄、退院調整、口腔ケアなどの勉強会も検討しています。

現在リハビリ室は、地下にありますが、将来的には病棟近くの上階に第二リハ室の設置が予定されており、病棟看護さんと連携して益々充実したリハビリを行っていきたいと考えています。



写真：前列左から、中島良二（理学療法士）、吉田雅博（部長）、前田明弘（理学療法士）
後列左から、伊藤敬太（理学療法士）、高津 淳（言語聴覚士）、南島翔太（作業療法士）、中嶋誠也（理学療法士）、山崎康司（理学療法士）

看護部 アピランスケア支援チームの紹介

がんやがんの治療に伴う外見（アピランス）の変化、それによって起こる困りごとへの援助を行うチームです。国立がん研究センターの研修を修了した看護師や専門看護師、認定看護師などが中心となり、2016年より活動を開始しています。

外見を整える方法をお伝えするだけでなく、外見の変化に伴って生じる困りごとに対してともに考え、患者さんが自分らしく生活できるようなサポートを心がけております。メンバーが所属する病棟や外来だけでなく、がん看護外来や緩和ケアセンターなどでも個別相談に応じています。お気軽にご相談ください。



写真：前列左から、宮谷美智子、井上さよ子、高木礼子、高畑知帆子
後列左から、小倉 梓、藤井理恵子、田崎智子、美濃屋亜矢子、小島 瞳、堀田枝里

オンラインセカンドオピニオンをはじめました！

当院では、インターネットとオンライン診療アプリを用いた、“オンラインセカンドオピニオン（自由診療）”を開始しました。移動に制限がある方や、遠方にお住まいの方（日本在住）も、お手持ちのスマートフォンで当院のセカンドオピニオンがご利用できます。現在かかってみえる医療機関からの紹介・申込みが必要になります。オンラインセカンドオピニオンを行っています診療科につきましては当院ホームページをご覧ください。

新任医師の紹介



消化器外科部
佐藤 雄介

1月より着任いたしました、佐藤雄介と申します。前任地の名古屋大学医学部附属病院では、大腸癌の外科治療に従事しておりました。これまでの経験を活かし、最適な治療を提供できるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。

医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分（祝日、年末年始を除く）
電話	052-764-9892（直通）
FAX	052-764-9897（24時間稼働しております。）
ホームページ	https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分（自動再来受付機による受付は午前8時からできます。）
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科（サルコーマ外来）、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、精神腫瘍科、緩和ケア科（ペインクリニック）、リンパ浮腫外来、リスク評価センター、がんゲノム外来
外来診療担当一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911（直通）午前9時～午後5時（土・日・祝・年末年始を除く）
 ※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。（完全予約制・自由診療）
 ※精神腫瘍科、リスク評価センターは、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

- 地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
- 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩3分

★車でアクセスのご案内

- ◎一般道路
本山交差点から北へ約7分、平和公園の北西
- ◎高速道路
東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 編集：運用部 経営戦略課 企画・経営グループ

ホームページ <https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

「がんセンターNEWS」に関するご意見・ご感想は [☑\(kohonews@aichi-cc.jp\)](mailto:kohonews@aichi-cc.jp) または FAX(052)764-2963 にてお寄せください。

なお、個別の返答は致しかねますのであらかじめご了承ください。